

建築文化

1998年11月1日発行（毎月1回1日発行）1948年7月9日第3種郵便物認可

**KENCHIKU
BUNKA
VOL.53
No.625**

11

**NOVEMBER
1998**

作品

窪田勝文 **CRYSTAL UNIT III**
高崎正治 ふれあいプラザ なのはな館
高崎正治 鹿児島トヨタ自動車遊輪館春日
ヘルマン・ヘルツベルハー YKK黒部寮
ゴッチア・ピパ ツイン・サイロ
新田正樹 **STONE SHELL**
西島正樹 沖縄・くすぬち平和文化館
アンリ・ゲイダン 原宿幼稚園
吉松秀樹 宇土マリーナハウス

特集

1990年代オーストリアの建築家たち
ARTEC
Adolf Krischanitz
Riegler Riewe
PAUHOF



ARTEC

Kern House
Raasdorf, Lower Austria
1996-98

アルテック
ケルン邸

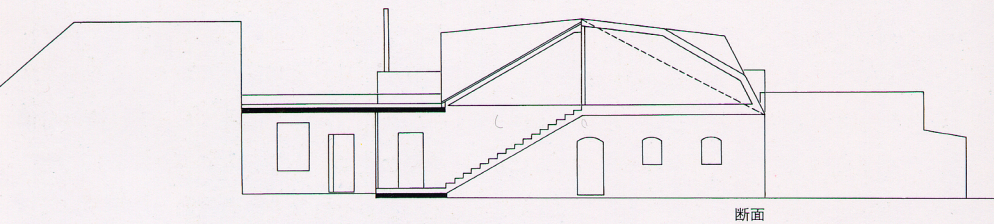
アルテック ARTEC

グラーツ工科大学で学んだベッティナ・ゲッツ (Bettina Götz / 1962年生まれ) とリヒャルト・マナール (Richard Manahl / 1955年生まれ) が、テオ・ラング、エド・ホークとともに、1985年に結成した。現在はゲッツとマナールでパートナーを組む。

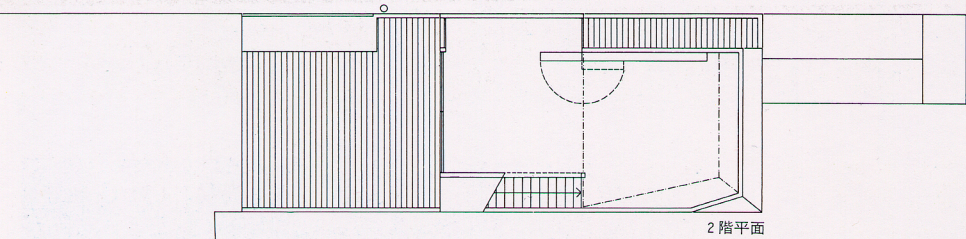
これは、ウィーン近郊のマルヒフェルトにある平坦な土地に建つ一群の伝統的な建物の片側に位置する既存の建物の改修・拡張のためのプロジェクトである。施主は家庭的環境から絶縁した静かな仕事部屋を必要とする学者である。グラウンドレベルにある短い通路は狭い階段に通じ、階段を上ると書斎入口に出る。その間、上からは絶えず光が差し込んでいる。書斎それ自体は部屋でもあり屋根でもあるという構造になっている。すなわち、階段頂上部の空間は囲われた内向きの空間だが、しかしそれはまた隣接するより立方体的な空間へとじかに開かれており、そこから扉

を経て広々としたテラスへと出ることができる。そしてこのテラスから母屋の部分をいわば振り返って見ることができるのである。それとは反対方向についているガラス扉を開けると、狭いバルコニーに出られて、そこから周囲の郊外の風景を見渡すことができる。メインテラスの真下に位置する浴室には、バルコニーとほぼ同じ大きさのルーフライトがついているが、このルーフライトとバルコニーは並行して配置されている。新しい屋根は、前の屋根のまるで亡霊でもあるかのようにアルミで仕上げられている。

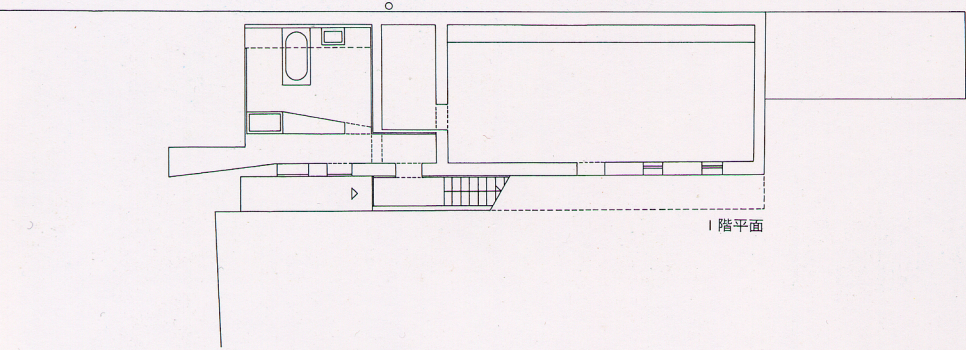
Peter Allison



断面



2階平面



1階平面

